



午前の講義は公開講座として開催され、約 120 人の先生方が熱心に受講されました。

思春期の児童 生徒と向き合う ために

今年度からの新講座
「思春期の子どもと保護
者に寄り添う教師のため
のソーシャルスキル研修
講座」を実施しました。

平成 28 年 8 月 25 日 (木) 実施

思春期の児童生徒を理解し、対応の方法等を身に付けるための新研修講座開催

講義・演習 「思春期の子どもと向き合う」

午前中は、講師に植草学園大学客員教授の荒木均先生をお迎えし、思春期の子どもの特徴や、対応の基本、多職種連携の考え方等についてご講義をいただきました。

児童生徒の行動特性や家族の状況の把握のポイントとして、生育歴における変化点や、食事の場面への注目を挙げ、受講者は演習を通して、実際にそのことを確認していました。

また、多職種連携については、連携のキーマンとなるファシリテーターの重要性を説明し、「学校で起こっている問題を解決しよう。」「視点を変えてみよう。」「みんなで問題を共有しよう。」という強い意志をもって活動していた方々との事例検討会を開いたエピソードを通して、問題行動等への対応の在り方についてお話をいただきました。

講義・演習「子どもと保護者に寄り添うソーシャルスキル」

午後は、アドラー心理学を生かした児童生徒・保護者への対応の考え方について講義を受けた後、七つの会場に分かれて、ロールプレイの演習を行いました。

扱う事例は校種ごとに異なりますが、実際の面接の場面（教師と児童生徒、教師と保護者、教師と児童生徒と保護者）を想定してのロールプレイを通して、児童生徒や保護者の心に寄り添うために必要となる「聴く」スキルを高めました。

<受講者の感想>

○荒木先生の講義の中で、児童生徒、保護者とのかかわり方や目のつけ所が素晴らしいすぎて感動しました。荒木先生のように寄り添い、話を聞いてくれる人がいるだけで、解決に向かう気がしました。

○それぞれの立場に立ったロールプレイができ、難しかったが、勉強になった。



荒木均先生

医学博士。これまで県内各地の保健所長や病院の副院長等を歴任し、現在は植草学園大学の客員教授及び一般企業の専属産業医を務めておられます。



演習でロールプレイを行っている様子